

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和08年03月18日

計画の名称	公共下水道の浸水対策重点計画（防災・安全）												
計画の期間	令和02年度～令和06年度（5年間）								重点配分対象の該当	○			
交付対象	富士宮市												
計画の目標	市内下水道管渠（雨水）を整備することにより、公共水域の水質保全、浸水対策を促進し、住みよく快適なまちづくりを目指す。												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	543	A	543	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (R2当初)	中間目標値 (R4末)	最終目標値 (R6末)
1	公共下水道管渠（雨水）新設工事を行うことにより、当初整備済面積 8.70haから目標整備済面積 10.93haに拡張し、整備率を39%以上にして、浸水被害を最小限に留める。			
	下川第3排水区整備率 整備済面積 / 計画整備面積 $39\% = 10.93\text{ha} / 28.00\text{ha} \times 100$	31%	38%	39%
2	公共下水道管渠（雨水）新設工事を行うことにより、当初整備済面積 8.75haから目標整備済面積 9.15haに拡張し、整備率を15%以上にして、浸水被害を最小限に留める。			
	弓沢川右岸第6排水区整備率 整備済面積 / 計画整備面積 $15\% = 9.15\text{ha} / 62.16\text{ha} \times 100$	14%	15%	15%
3	公共下水道事業（雨水）の浸水シミュレーションを行うことにより、当初評価面積 0.0haから目標評価面積 976.1haに拡張し、評価率を35%以上にして、地区ごとの浸水リスクを評価する。			
	市街化区域評価率 評価済面積 / 全体計画評価面積 $35\% = 976.1\text{ha} / 2754\text{ha} \times 100$	0%	0%	35%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												R02	R03	R04	R05	R06			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
下水道事業	A07-001	下水道	一般	富士宮市	直接	富士宮市	管渠(雨水)	新設	下川第3排水区管渠整備 (浸水対策)	予定整備面積 2.23ha	富士宮市						323	-	
	A07-002	下水道	一般	富士宮市	直接	富士宮市	管渠(雨水)	新設	弓沢川右岸第6排水区管 渠整備(浸水対策)	予定整備面積 0.40ha	富士宮市						100	-	
	A07-003	下水道	一般	富士宮市	直接	富士宮市	管渠(雨水)	新設	内水浸水リスクマネジメ ント(浸水対策)	浸水シミュレーション 976.1 ha	富士宮市						120	-	
											小計						543		
											合計						543		

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制 富士宮市社会資本整備総合計画等評価委員会	事後評価の実施時期 令和7年12月
	公表の方法 富士宮市ホームページにて公表
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	管渠整備2排水区のうち、1排水区の整備が完了しました。 雨水管渠が整備されたことにより、道路冠水及び民地への浸水は、整備区域内で現在まで生じていません。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	
特記事項（今後の方針等）	
引き続き、現地測量を実施し、より現実に即した、雨水出水浸水想定区を作成していきます。また、令和8年度には雨水管理総合計画を策定し、弓沢川右岸第6排水区管渠整備を含め、公共下水道事業による浸水対策を計画的に進めていきます。	

目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因
1	公共下水道管渠(雨水)新設工事を行うことにより、当初整備済面積8.70haから目標整備済面積10.93haに拡張し、整備率を39%以上にして、浸水被害を最小限に留める。	
	最終目標値	39%
	最終実績値	39%
計画どおりに工事が完成できたことにより、目標値の39%を達成することができました。		
2	公共下水道管渠(雨水)新設工事を行うことにより、当初整備済面積8.75haから目標整備済面積9.15haに拡張し、整備率を15%以上にして、浸水被害を最小限に留める。	
	最終目標値	15%
	最終実績値	14%
令和3年度の水防法改正により、原則、雨水出水浸水想定区域の指定等が義務化されたこと等により、令和7年度までに最大クラスの内水に対応した浸水想定区域を作成する必要が生じたため、本期間に予定していた整備面積0.4haについては、延期としました。		
3	公共下水道事業(雨水)の浸水シミュレーションを行うことにより、当初評価面積0.0haから目標評価面積976.1haに拡張し、評価率を35%以上にして、地区ごとの浸水リスクを評価する。	
	最終目標値	35%
	最終実績値	37%
当初市街化区域評価率は、浸水のおそれがある排水区の面積から算出し、目標値35%としていたが、事業の進捗が図れたことにより、実績値が37%となりました。		